令和５年度「地域学校協働本部事業」
地域学校協働活動事業の取組事例

川内村地域学校協働活動の成果と課題（福島県川内村）

取組の概要や経緯

東日本大震災と原発事故から令和６年３月で１３年を経過するが、当村では若い世代の帰村が進まない状況から少子化が急速に進み、都市部との教育環境の格差が生じている。令和３年度に開校した義務教育学校「川内小中学園」への継続的な地域学校協働活動の推進による学習支援の充実を図っている。

また、共働き世帯などの家庭を支援するために、放課後子ども教室を開設し、子どもたちの放課後の居場所づくりと体験活動等の支援も行っている。

内容

〇ふるさとの魅力（自然、産業、文化等）を学ぶ体験活動
- 前期課程において、村の産業体験（田植えと稲刈り、そば打ち）を実施する。また、村の新たな魅力を体験（秋風舎、ドローンパーク見学）する。

〇村の人、ものを活かしたキャリア教育の推進
- 後期課程においては、地元企業で職場体験を実施し、職業に対する関心を高め、自ら地域と関わろうとする意欲を育てる。

〇「かわうち興学塾」における放課後等の学習の支援
- 個人の学習状況の把握と目的意識をもたせ、個に応じた学習課題に取り組む。

〇放課後子ども教室の運営と活動の充実
- 身体づくりと各種体験教室、室内遊びを実施する。

ポイント

〇児童生徒の学びのねらいを明確にし、地域資源「人・もの・こと（文化等）」を活かした体験活動の拡大を図る。
〇「かわうち興学塾」では、児童生徒に目的意識をもたせた個の学習課題に取り組ませる。
〇「放課後児童クラブ」との一体型による放課後子ども教室運営を行う。

成果

〇児童生徒と地域の人々の交流の機会と場が増え、学校と地域のWinWinの関係が構築された。
〇児童生徒はふるさとの探求学習を通して、地域の新たな魅力を発見したり村の復興状況の認識を深めたりするとともに、未来への希望を抱くことができた。
〇放課後等の学習支援により、個の学習習慣の確立と学力の定着が図られていた。
〇教室とクラブのスタッフにより、安心・安全な子どもの居場所づくりができた。

今後の方向性

〇校内研修等にて「地域学校協働活動」に対する一層の共通理解を図る。
〇地域学校協働活動推進員と地域連携担当教職員、事務局担当者による定期的な情報交換の実施等運営体制の強化を図る。
〇保護者や地域住民・事業所等への事業説明の機会や地域学校協働研修会への参加等を通して、事業スタッフを育成する。
〇放課後等学習支援の充実とともに、家庭における学習習慣の確立のための保護者との情報を共有する。